

# 大地

54. 4. 10

no. 1

浄国寺

## 生きる喜び

○土筆 生きむ願いのひとすじに

大地を割りて伸び出でにけり

これは皆様御承知の、亡父の歌であります。どんなに雪の多い年でも、裏のみじの木の下に、二本、三本、五本、十本と、次から次へとむらがって出て来ます。やわらかなみづみづしい茎をしたつくしが、春を待ちかねて、生きたい願ひひとすじに、大地を割って伸び出てくるのを、わが身と一つに思ふ詩人の心から、この歌はうまれたのだと思います。

○何やらむ生くるにあちで生かされてあるを実感す無碍光かこれは先年七十余才で亡くなら

れた、吉野秀雄さんの歌であります。吉野さんは殆んど半生を、病床で送られ乍ら、数々の秀歌、歌人として立派な業績を残されました。晩年親鸞に傾倒され、浄土真宗の信仰に生きられまされた。病床にありながら、無碍光の中に生かされている、わが身を実感されていきます。ここにこそ真の自由人、独立者、独尊子を見ることが出来ます。

## この人も

○この人も信ずるに足る春の雷

これは先に朝日新聞の俳壇に出た句で、選者中村草田男氏も、近來これ程心あたゝめられた句はないと評し、巻頭にのせられた句であります。「あの人はいゝ人だ」。「いやこの人も立派な方だ」。「いやいや、この人も立派な方だ」と思っている時、春の雷がなつた。雷さえも春の雷は何となく、おだやかな音に聞えて来たのでしよう。ほんとうに作者の情のあたたかさ、がひしひしと感じられますね。毎日の新聞、テレビを見れば、

汚職、殺人、強盗、自殺等、目を覆いたくなるような昨今の世相です。地方選も始まりましたが、自分に票をくれそうもない人は、皆愚人悪人に見え、自分の仲間と運動している者でも、所謂上層部の思い通り動かぬ者は、意気地なし、弱人と見る。人を悪人、悪人、弱人と見る、つくづく人として寂しさを感じます。

去る四十九年十月、喉頭の手術をし、声帯をとったので発声不能になって、五年たちました。今は月二回、食道発声法の練習に、長野日赤に通っています。集る人々は、皆、同病相あわれみ、暖い心で励まし合ひ、親切に先輩に教えて頂くのは何より楽しみです。車中から見ると、こぶし、杏、桃、りんごなど、百花一時に開く信濃の春は又、こよなく心をはずませてくれます。又家では裏の庭に、「ろくでもない木を、数えきれない程沢山植えたね」と笑われ乍らそれを眺めて喜んで居ります。芽吹き、開花、新緑、滴翠、やがて紅葉、落葉、裸木等、いつもそれぞれ美しく見あきません。元來人の心と大地を母とする自然は美しいなあと思ふ今日この頃でございます。

御寄附を頂いて

本願寺八代目の蓮如上人は、中興の上人と言われますが、御一生の間、真宗の教法宣布につとめられ、吉崎、山科、石山本願寺、大阪城の前身)を始め、金沢、城端、共波等の大寺院建設の基礎をつくられました。あの時代にどの一つも、まるで城のような大寺院を建てられた訳です。

歴史学者藤島達郎博士に教えられたのですが、上人はつねづね「本願を信じ念仏申せ、仏のことはけちるな、衣食住は節約の限りをつくせ、紙一枚も法領物よ」と仰せられていたそうです。先年私も越中五箇山の、上人の愛弟子道宗を開基とする、赤尾の行徳寺を訪れ泊めて頂き、上人より道宗に下された数々のお文を見せて貰いました。粗末な紙にびっしりと細字で書かれておりました。真実の教をわかり易くとかれ、「仏の本願をおおぎ、私生活をきりつめ仏のことはけちるな」と身を以て示されたことは、どれだけ一般民衆に感激を与えたことでしょう。それだからこそあの偉大な仕事

出来たのだと思えます。拙寺でもこの度、本堂一部改修庫裏改築には思い切ってやって見ました。本堂と同じく、庫裏も御承知の如く、公共物として、宗教法人法で無税です。大部分は檀家の方々の為のもので、広く、立派にした積りでありませう。今後も上人の「本願を信じ念仏申せ、仏のことはけちるな、衣食住は節約せよ」のお言葉を、寺族一同守り続けて行く所存であります。

お蔭様で御寄附も予算以上に頂き、暖冬無雪の天候にも恵まれ、工事もすこぶる順調に進み、古屋のとりこわし、台所、湯殿等の仮設工事、移住(本堂の一部へ)、基礎工事等も終わりました。上棟式も四月九日、十日とばかり十一日に行う事になりました。全く有難いこととございます。

お目出たいこと

檀家に上越市第一の長寿者、百一才の山崎イキさんが居られます。北本町二丁目の山崎藤一さんのお母さんですが、この間まで畑仕事をなされ、年中足袋などはかれず、

針仕事もされ、お斎の日は朝から待って居られ、御自分でおあかりもつけてお詣りされます。孫、曾孫を格別可愛がられます。又御結婚六十年(ダイヤモンド婚の金字練造さん御夫妻、既に五十年の金婚式をすまされた総代の風間萬治さん、入村清治さん、長谷川岩男さん、新井音五郎さん、長谷川健治さん等数多く居られます。

万葉集に

幸のいかなる人か黒髪さねの白くなるまで、妹が声聞く  
「妹は今の妻の意」  
とあります。いかなる幸の縁をもった人か、黒髪の白くなるまで、妻の声を聞き二人仲よく暮せるとはの意と思えます。武者小路実篤氏は「仲よきことは美しきかな」と言われましたが仲睦じい老夫婦のお姿はこの世の美しいものの最高と言った人もあります。お目出たいことですね。



(3)

愚
色
愚
光

賢色けんしき賢光けんこう、愚色ぐしき愚光ぐこう  
 貧色ひんしき貧光ひんこう、強色きょうしき強光きょうこう  
 互たがひ為な拙ちやく嚴げん 弱色じやくしき弱光じやくこう

これは先年亡父が多年師事し、先生も亦「高田の山崎君山崎君」と愛され、せまい汚ない我が家にも泊って、法話をお聞かせ願った。鳥敏先生が、書いて下さったものであります。

かしこきはかしこき光を、おろかなるものはおろかな光を、とめるはとめる光を、まじしきはまじしき光を、つよきはつよき光を、よわきはよわき光を、思いきり出すがよい。ほこらず、ひがまず、皆でよりあい、力を協せて、浄土の莊嚴のような、美しい楽しい世界を作りましょう。との意かと思えます。

いろいろの人集りて喜べり  
 有難きかな 御光のもと  
 の歌も書いて下さいました。

病老僧も、和やかな家族の中にあつて、愚色愚光、弱色弱光、ただ有難く思つて居ります。  
 この度の、本堂一部改修、庫裏改築の御寄附をお願いするにあつても、この語は、私共にとつて何よりの力となりました。



お知らせ

公開講演会

- 一、とき 五月二十七日(日) 一時より
  - 二、ところ 高田別院(寺町二丁目)
  - 三、講師 小田実(おだまこと)  
(作家)
  - 四、会費 五百円(参加券代)
  - 主催 真宗大谷派高田教区  
仏教青年会
- ※参加券は浄国寺にあります

浄国寺行事予定

- 四月 七日 世話人会
- 四月 十一日 上棟式
- 七月 末日 工事完了
- 八月 七日 お盆永代経竣工式
- 八月 八日
- 八月 十三日 盆会
- 八月 十五日
- 九月 十八日 秋彼岸入り
- 十一月 一日 報恩講
- 十一月 一日 新年
- 一月 三日 修正会
- 三月 十八日 春彼岸入り

後

記

始めて寺報「大地」を皆様に送ります。今後はお盆、正月と年三回の予定です。今回は時間がないうまま老住職のみ書きましたが、次からは寺族の者、檀家の皆様にも是非御寄稿願いたいと思ひます。